

老施協

JS-Weekly

No.816

発行 令和4年2月4日

編集 公益社団法人
全国老人福祉施設
協議会



老施協
VISION 2035



首相官邸HPより

今週のポイント

- ▶ 全国老施協 制度政策検討会議で「人員基準の方向性」について意見を集約
- ▶ 厚生労働省 介護職員処遇改善支援補助金のQ&A発出 要件や提出書類などを解説

国の一週間

| | | |
|------------|-------|--------------------------------------|
| 国会 | 1/17~ | 第208回通常国会 |
| (内閣) 官邸 | | |
| 厚生労働省 | 1/27 | 令和3年度全国厚生労働関係部局長会議 (説明動画公開) ▶ P.8 |

老施協の一週間

| | | | |
|-------|-----|-------|-----------------|
| 全国老施協 | 2/2 | WEB開催 | 第5回制度政策検討会議 |
| | 2/2 | WEB開催 | 第2回総務・組織委員会四役会議 |
| | 2/4 | WEB開催 | 第14回常任理事会 |
| | | | |

今週のトピックス

- ▶ P.2 全国老施協、「介護現場の生産性向上等に係る人員基準の方向性」について意見を集約
- ▶ P.3 厚生労働省、介護職員処遇改善支援補助金についてQ&A発出
- ▶ P.4 厚生労働省が新型コロナワクチンの3回目接種の取扱いを整理
対象者に接種券が届いていなくても接種可能
- ▶ P.5 厚生労働省、就業制限の解除における職場等への証明書の提出の求めを控えるよう呼びかけ
- ▶ P.6 厚生労働省、適切なケアマネジメントのあり方を解説
専門家の解説動画第3弾を公開
- ▶ P.7 厚生労働省が特別相談窓口の期限を3月31日まで延長
- ▶ P.8 「LIFEは事業所、利用者単位のフィードバックを行う予定」老健局長が来年度の重点施策等を説明
- ▶ P.9 リクルート社HELPMAN JAPANが人気漫画「ヘルプマン!」の記念イベントを開催
- ▶ P.10 【コラム】認知症BPSDケアプログラムにおける取り組み実践事例②



ご意見・ご要望は
こちらまで



公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705

Mail js.jimukyoku@roushikyo.or.jp

URL <https://www.roushikyo.or.jp>

Twitter, Facebook, Instagram, LINEでも情報発信中!



全国老施協

全国老施協、「介護現場の生産性向上等に係る人員基準の方向性」について意見を集約

令和3年度第5回制度政策検討会議

ポイント

- ① 内閣府のヒアリングに向けて、意見を集約
- ② 今後の認知症ケアの方向性を確認・共有

▶ 認知症ケアの方向性、BPSD評価尺度の普及などについて、山口晴保氏が説明

全国老施協は2月2日、第5回制度政策検討会議をオンラインで開催した。

この日の議題は、①今後の認知症ケアの推進について、②介護現場の生産性向上等に係る人員基準の方向性について。①では、今後の認知症ケアの取り組みについて認識の共有と意見交換を図り、②では、介護現場の生産性向上等に係る人員基準の方向性について、全国老施協としての対応を協議、確認した。

議題①では、鴻江圭子氏がこれまでの認知症ケアに関する調査研究事業や研修、認知症BPSDの普及啓発などの取り組みを報告。次に、認知症介護研究・研修東京センター長の山口晴保氏が、認知症の評価尺度、認知症への対応力強化に向けた取り組みの見通しなどを説明した。

このなかで山口氏は、「認知症は認知機能（中核症状）と周辺症状（行動・心理症状＝BPSD）のみならず、神経症状や生活障害の視点からも捉える必要がある」と強調し、服薬管理や安心して過ごせる環境づくりの重要性や、過度な抗精神病薬投与の問題点などを指摘した。

▶ 「4：1に向けた人員基準緩和」の議論に、反発相次ぐ

議題②では、昨年12月の規制改革推進会議での提言をきっかけに俎上に上った「生産性向上と人員基準」について協議し、全国老施協としての見解を確認した。内閣府がこの問題についてヒアリングを実施することになっており、ここで集約した意見をもとに意見交換を行う。

出席者からは、「（提言された）4：1は論外。ロボット・ICTの活用は時代の流れだが、機械任せで心の抜けたケアになってはならない」「テクノロジーは人間の能力を超える部分のみに導入すべき。そこを補助することで空いた時間を利用者と過ごす時間、サービス向上に振り向けるようにしなければならない」「（2：1という）現場の実態をリスペクトし、制度がこれに合わせていくべきだ」「3：1でも、労働基準法を遵守する体制を維持するのは難しいのが実情」など、現場の実態を無視した人員基準の議論に反発の声が相次いだ。

「この議論の背景には報酬抑制の意図があるのではないか」と危険視する声や、「丁寧にわかりやすく説明していく必要がある」との意見もあった。



ご意見・ご要望は
コチラまで



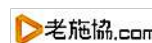
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705

Mail js.jimukyoku@roushikyo.or.jp

URL <https://www.roushikyo.or.jp>

Twitter, Facebook, Instagram, LINEでも情報発信中！





特養

養護

軽費・ケアハウス

デイサービス

在宅・地域密着
その他

グループホーム

厚生労働省

厚生労働省、介護職員処遇改善支援補助金についてQ&A発出

「介護職員処遇改善支援補助金に関するQ&A（令和4年1月31日）」の送付について
(介護保険最新情報vol.1031)

ポイント

- ① ベースアップ等の具体的な要件などについて提示
- ② 処遇改善計画書・実績報告書の記入の仕方なども説明

▶ 補助金の交付要件など31項目をQ&Aで解説

厚生労働省は1月31日、介護職員処遇改善支援補助金に関するQ&Aを各都道府県に送付し、事業所などへの周知徹底を依頼した（介護保険最新情報Vol.1031）。賃金改善全般をはじめ、ベースアップ等に係る要件や処遇改善計画書・実績報告書の記入・提出などについて、31項目のQ&Aを掲載している。

たとえば、今年の2月、3月分の賃金改善は一時金の対応も可能とされていることについては、「毎月ごとに賃金改善額が補助額を上回ることを求めるものではない」とし、「2月、3月分として見込まれる補助金額のすべてを賃金改善に充てる必要はない」と明記。実施期間全体で補助金の合計額を上回る賃金改善を行う必要があるとしている。処遇改善計画書には、2月、3月分に限った記載を求めないとした。

補助金については賃金改善の合計額の3分の2以上をベースアップに充てることを要件としており、2月、3月分は一時金で対応した場合でも4月分以降は毎月の賃金改善が必要となるとしている。時給や日給の引き上げは「ベースアップ等の引き上げに当たる」ことなども示している。

▶ 賃金改善開始の報告 3月に2か月分をまとめて行う場合は、3月末でもOK

賃金改善開始の報告様式の提出時期についても言及している。

賃金改善開始の報告を賃金改善開始月に都道府県に提出しなければならないが、これについて「2月分及び3月分の賃金改善を行っていることを担保するため」と明記。原則、今年2月末までの提出を求めている。ただ、

- 今年3月分とまとめて2月分の賃金改善分の支給を行う場合は、3月末日までの報告とすること
- やむを得ない事情により、2月分から賃金改善を行っているにもかかわらず未報告であった場合には、処遇改善計画書の提出時（4月15日が期限）に併せて報告を行うこと

も認められる。

(参考資料：<https://www.roushikyo.or.jp/?p=we-page-menu-1-2&category=19325&key=21769&type=content&subkey=414574>)



ご意見・ご要望は
コチラまで



公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705

Mail js.jimukyoku@roushikyo.or.jp

URL <https://www.roushikyo.or.jp>

Twitter, Facebook, Instagram, LINEでも情報発信中!





特養

養護

軽費・ケアハウス

デイサービス

在宅・地域密着
その他

グループホーム

厚生労働省

厚生労働省が新型コロナワクチンの3回目接種の取扱いを整理 対象者に接種券が届いていなくても接種可能

高齢者施設等の入所者及び従事者、通所サービス事業所の利用者及び従事者への新型コロナウイルス感染症に係る予防接種（追加接種）の速やかな実施について

ポイント

- ① 自治体と密接に連携をはかり追加接種の体制整備を
- ② 武田／モデルナ社ワクチンの積極的な活用も依頼

▶ 追加接種に関する通知や事務連絡を改めて示し、速やかな実施を呼びかける

厚生労働省は1月28日、高齢者施設の入所者や従事者などへの新型コロナウイルスワクチンの追加接種の留意事項を取りまとめ、関係団体に事務連絡した。オミクロン株の感染が急拡大するなか、特に重症化リスクの高い高齢者のいる施設の入所者および従事者、通所サービス事業所の利用者および従事者については、1・2回目接種の完了から8か月以上の経過を待たずに追加接種を実施する対象とされている。

入所者と職員の速やかな追加接種については、自治体と密接に連携をとり、必要に応じて医療機関や自治体などからの助言を得て体制を整備するよう要請。体制の構築については、「高齢者施設への新型コロナウイルス感染症に係る予防接種を行う体制の構築について」（令和3年1月28日付け通知）において示されている「高齢者施設における新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の基本的な考え方」なども参考とすることとしている。

追加接種の接種券については、実施時まで届いていない場合でも接種は可能とした。追加接種の事務運用については、「例外的な取扱いとして接種券が届いていない追加接種対象者に対して新型コロナワクチン追加接種を実施する際の事務運用について」（令和3年11月26日付け事務連絡）や「追加接種の速やかな実施のための接種券の早期発行等について」（令和4年1月27日付け事務連絡）の積極的な活用を求めている。

▶ 使用するワクチン等についても言及

使用するワクチンについては、ファイザー社製と武田／モデルナ社製のいずれも使用可能であり、武田／モデルナ社ワクチンの積極的な活用を依頼。効果については1・2回目接種でファイザー社製を接種した人が3回目接種でファイザー社製、武田／モデルナ社製のいずれを接種しても抗体価が十分上昇し、安全性についても確認されているとしている。

また、オミクロン株に対しても、入院予防効果および発症予防効果が回復するとしており、「新型コロナワクチン追加接種（3回目接種）の体制確保について（その3）」（令和3年12月17日付け事務連絡）や「65歳以上の方へ追加（3回目）接種に使用するワクチンについてのお知らせ」を参考とするよう促している。

新型コロナワクチン追加接種（3回目接種）の体制確保について（その3）

<https://www.mhlw.go.jp/content/000869014.pdf>

（参考資料：<https://www.roushikyo.or.jp/?p=we-page-menu-1-2&category=19325&key=21769&type=content&subkey=414571>）



ご意見・ご要望は
こちらまで



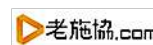
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705

Mail js.jimukyoku@roushikyo.or.jp

URL <https://www.roushikyo.or.jp>

Twitter, Facebook, Instagram, LINEでも情報発信中！





特養

養護

軽費・ケアハウス

デイサービス

在宅・地域密着
その他

グループホーム

厚生労働省

厚生労働省、就業制限の解除における職場等への証明書の提出の求めを控えるよう呼びかけ

感染症法に基づく就業制限の解除に関する取扱いの周知徹底について

ポイント

- ① 濃厚接触者となった介護職員の待機期間 最短5日で解除
- ② 勤務再開時の証明提出は控えるよう求める

▶ 就業制限の解除について留意点を周知

厚生労働省は2月3日、「感染症法に基づく就業制限の解除に関する取扱いの周知徹底について」を介護事業者団体に事務連絡した。濃厚接触者となった介護職員が就業を再開する際、事業所等で職員に対し証明を求めることを控えるなどの留意点を改めて周知し、協力を求めている。

今年1月31日に一部改正された厚生労働省事務連絡「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第18条に規定する就業制限の解除に関する取扱いについて」において、医療従事者などの就業制限の解除に関する取り扱いが以下のように整理されている。

- （感染者の）就業制限の解除については、宿泊療養または自宅療養の解除の基準を満たした時点（日数を経過した時点）で、同時に就業制限の解除の基準を満たすこととして差し支えない。
- （感染者の）就業制限の解除については、医療保健関係者による健康状態の確認を経て行われるものであるため、解除された後に職場等で勤務を開始するに当たり、職場等に証明（医療機関・保健所等による退院もしくは宿泊・自宅療養の証明またはPCR検査等もしくは抗原定性検査キットによる陰性証明等）を提出する必要はない。
- 濃厚接触者の待機期間の解除については、解除された後に職場等で勤務を開始するに当たり、職場等に証明を提出する必要はない。

事務連絡では、これに基づき、事業所等において勤務を開始する職員に対し、証明を求めることは控えるよう改めて依頼している。

▶ 品薄の抗原定性検査キット 介護職員等の速やかな職場復帰のために活用を

品薄となっている抗原定性検査キットの使途についても、協力を求めている。

1月28日に改正した事務連絡「新型コロナウイルス感染症の感染急拡大が確認された場合の対応について」では、濃厚接触者となった「エッセンシャルワーカー」について、自治体の判断により、待機期間の7日間を待たずに、4日目および5日目の抗原定性検査キットを用いた検査で陰性確認できた場合、5日目に待機を解除できることが示された。

しかし現在、抗原定性検査キットの受給がひっ迫していることから、「政府としては、抗原定性検査キットは、社会機能の維持のために必要な事業に従事する者の速やかな職場復帰に向けて使用することが重要」と考えていると通知。「抗原定性検査キットは、濃厚接触者の待機期間短縮（7日から5日へ）のためにのみ」使用するよう、協力を求めている。

（参考資料：<https://www.roushikyo.or.jp/?p=we-page-menu-1-2&category=19325&key=21769&type=content&subkey=415115>）



ご意見・ご要望は
こちらまで



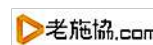
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705

Mail js.jimukyoku@roushikyo.or.jp

URL <https://www.roushikyo.or.jp>

Twitter, Facebook, Instagram, LINEでも情報発信中！





特養

養護

軽費・ケアハウス

デイサービス

在宅・地域密着
その他

グループホーム

厚生労働省

厚労省、適切なケアマネジメントのあり方を解説 専門家の解説動画第3弾を公開

「適切なケアマネジメント手法の策定、普及推進に向けた調査研究事業（令和3年度老人保健健康増進等事業）」委員インタビュー動画(第3弾)の公開のご連絡について（情報提供）【その3】（介護保険最新情報Vol.1032）

ポイント

- ① 江澤医師が高齢者の尊厳とケアについて説明
- ② 石山委員は多職種の協働・連携について解説

▶ 尊厳の保障や多職種協働によるケアマネジメントについて委員が語る

厚生労働省は2月1日、「適切なケアマネジメント手法の策定、普及推進に向けた調査研究事業」における委員のインタビュー動画（YouTube）の第3弾を公開し、自治体関係者や関係団体に事務連絡した（介護保険最新情報Vol.1032）。居宅介護支援事業者や介護支援専門員などが積極的に活用し、ケアマネジメントの質の向上に向けた取り組みをより一層進めるよう促している。

同事業では、委員のインタビュー動画の第1弾を昨年12月に、第2弾を今年1月に公開している。

今回の第3弾では、江澤和彦医師が「尊厳の保障」について解説。本人の思いを共有したケアや自立支援・重度化防止の視点の大切さなどについて語っている。石山麗子委員は「行政・ケアマネジャー・多職種の協働によるケアマネジメントの展開」について解説。適切なケアマネジメント手法の起こりと生成過程、今後の可能性などについて語っている。

○ 江澤和彦医師
（公益社団法人日本医師会 常任理事）
「尊厳の保障」
<https://youtu.be/XRiiTzaxne0>

○ 石山麗子委員
（国際医療福祉大学大学院 医療福祉経営専攻 教授）
「行政・ケアマネジャー・多職種の協働によるケアマネジメントの展開」
<https://youtu.be/p5mA5y2MiXc>

（参考資料：<https://www.roushikyo.or.jp/?p=we-page-menu-1-2&category=19325&key=21769&type=content&subkey=414880>）



ご意見・ご要望は
コチラまで



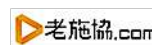
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705

Mail js.jimukyoku@roushikyo.or.jp

URL <https://www.roushikyo.or.jp>

Twitter, Facebook, Instagram, LINEでも情報発信中！



厚生労働省

厚労省が特別相談窓口の期限を3月31日まで延長

新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置並びに助成金及び特別相談窓口の期限延長に関する周知への御協力について（依頼）

ポイント

- ① 事業主に事務づけられる母健措置の期限は3月31日まで
- ② 母健措置による休暇制度導入助成金や相談窓口も延長

▶ 新型コロナ感染症に関して、母健措置等を事業主に義務づける期限を延長

厚生労働省は1月28日、新型コロナ感染症に関する母性健康管理措置（母健措置）や関連する助成金、特別相談窓口の期限を延長することを介護関係団体に事務連絡し、会員への周知を依頼した。

妊娠中・出産後1年以内の女性労働者が保健指導・健康診査の際に主治医や助産師から指導を受け、事業主に申し出た場合、その指導事項を守るために必要な措置（母性健康管理措置）を講じることが事業主に義務づけられている。新型コロナ感染症については、妊娠中の女性労働者が感染の恐れに対する心理的ストレスが母体または胎児の健康保持に影響があるとして主治医や助産師から指導を受け、それを事業主に申し出た場合、事業主は必要な措置を講じなければならない。同措置の期限は1月31日となっていたが、3月31日まで延長された。

▶ 助成金、特別相談窓口も期限を延長 留意点を通知

これに合わせて、新型コロナ感染症に関する母健措置として、休業が必要とされた妊娠中の女性労働者に有給休暇制度を設けた事業主に支給される助成金の期限についても、3月31日まで延長する。助成金の対象となるのは有給休暇を5日以上取得させるなどの条件を満たす事業主で、1事業所につき15万円を支給（1回限り）。また、20日以上取得させた場合には、両立支援等助成金として対象労働者1人当たり28万5,000円を支給する（1事業所当たり5人まで）。いずれも対象期間は3月31日までで、申請期間は5月31日まで。

働く妊婦の新型コロナ感染症に関する相談を受けつける窓口として各都道府県が設けている「母性健康管理措置等に係る特別相談窓口」についても、3月31日まで延長する。この窓口では、母健措置や助成金に関する相談などに対応している。


（参考資料：<https://www.roushikyo.or.jp/?p=we-page-menu-1-2&category=19325&key=21769&type=content&subkey=414573>）

働く妊婦・事業主の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症に関する 母性健康管理措置について

対象期間が令和4年3月31日まで延長されます。

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する中、働く妊婦の方は、職場の作業内容等によって、新型コロナウイルス感染症への感染について不安やストレスを抱える場合があります。こうした方の母性健康管理を適切に図ることができるよう、**男女雇用機会均等法に基づく母性健康管理上の措置として、新型コロナウイルス感染症に関する措置を新たに規定しました。**



出典：厚生労働省



ご意見・ご要望は
コチラまで



公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705

Mail js.jimukyoku@roushikyo.or.jp

URL <https://www.roushikyo.or.jp>

Twitter, Facebook, Instagram, LINEでも情報発信中！





厚生労働省

「LIFEは事業所、利用者単位のフィードバックを行う予定」 老健局長が来年度の重点施策等を説明

令和3年度全国厚生労働関係部局長会議

ポイント

- ① 来年度の重点施策に関する動画をアップ
- ② LIFEは事業所、利用者単位のフィードバックを行う予定

▶ 自治体の担当者に理解してもらうため開催

全国厚生労働関係部局長会議は厚生労働省が課題や来年度の重点施策などを紹介し、自治体の担当者に趣旨や内容を理解してもらうことを目的に毎年開催されてきた会議。新型コロナウイルス感染症予防の観点から、前年度に続いて資料および説明動画の掲載のみの形となった。

1月27日、YouTubeの同省公式チャンネルに局長などが施策等を説明する動画がアップされ、あわせて同省ホームページで関連資料が公表されている。

▶ 介護職員処遇改善支援補助金への対応、協力を求める

介護分野では、老健局の土生栄二局長が老健局関係の主要課題を説明した。

まず今年2月から実施する介護職員処遇改善支援補助金への対応については、「対象は介護職員だが、各事業所においては他の職種にも処遇改善が行えるよう柔軟な運用を認めることとしている。2月から、遅くとも3月から賃金を引き上げていただけるよう、今回の補助金の周知や円滑な執行に向けてご協力をお願いする」と述べた。

続いて、▽地域包括ケアシステムの推進（インセンティブ交付金・地域づくり加速化事業等）、▽新型コロナウイルス感染症への対応（サービス提供体制確保事業・かかり増し経費支援・オンライン通いの場アプリ等）、▽認知症施策（認知症疾患医療センター・無資格者への認知症介護基礎研修受講義務づけ等）、▽介護施設等の整備（地域医療介護総合確保基金の活用等）、▽災害対策（介護施設等における防災リーダー養成等支援事業・社会福祉施設等の耐災害性強化対策等）についてそれぞれの概要を説明し、協力を求めた。

介護人材の確保については、「引き続き喫緊の課題となっている。厚生労働省としては処遇改善や就業促進、人材育成、職場環境の改善による離職防止への支援などを含め部局横断的に総合的な取り組みを進めている」とし、「老健局はICTや介護ロボットを活用した生産性向上の推進による現場の負担軽減、職場環境の改善に取り組んでいる」と述べた。

また、LIFE（科学的介護情報システム）については、「現在は全国集計値のみのフィードバックとなっているが、データの集積に伴い、今後、事業所単位、さらに利用者単位のフィードバックを順次行っていく予定」と説明した。

説明動画はこちらから

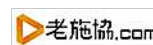
https://www.youtube.com/playlist?list=PLMG33RKISnWjhktWseWeWDF7_cQtNwE16(参考資料：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_23259.html)ご意見・ご要望は
こちらまで

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705

Mail js.jimukyoku@roushikyo.or.jpURL <https://www.roushikyo.or.jp>

Twitter, Facebook, Instagram, LINEでも情報発信中！





特養

養護

軽費・ケアハウス

デイサービス

在宅・地域密着
その他

グループホーム

HELPMAN
JAPAN

リクルート社HELPMAN JAPANが人気漫画「ヘルプマン！」 の記念イベントを開催

ありがとう！「ヘルプマン」介護業界を見つめ続けた18年間

ポイント

- ① 18年続いた介護漫画のイベントをオンラインで無料開催
- ② 作者と介護にまつわる人々のトークセッションを実施

▶ 作者をはじめ漫画に登場した介護業界の人々が登場

介護業界を描いてきた人気漫画『ヘルプマン！』のメモリアルイベントが、オンラインで開催される。18年にわたりシリーズ展開されてきた同作は昨年秋に一区切りを迎えており、感謝の意を込めてHELPMAN JAPANが主催する。参加費は無料。

開催日時は3月28日（月）18：30～21：00（受付18：00～）。

当日は作者のくさか里樹さんのほか、漫画に登場したミライ塾（現ミライ道場）の奥平幹也さん、中浜崇之さん、注文をまちがえる料理店の和田行男さん、小国士朗さんが登場し、トークセッションを行う。

申し込み締め切りは3月28日（月）12：00。参加登録をした人に別途、当日のZoom URLが送られる。

イベントの詳細、申し込みは下記URLから

<https://emotion-tech.net/GuyrYDdj>

（参考資料：<https://www.roushikyo.or.jp/?p=we-page-menu-1-2&category=19325&key=21768&type=content&subkey=414764>）



ご意見・ご要望は
コチラまで



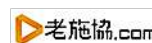
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705

Mail js.jimukyoku@roushikyo.or.jp

URL <https://www.roushikyo.or.jp>

Twitter, Facebook, Instagram, LINEでも情報発信中！





認知症BPSDケアプログラムにおける取り組み実践事例②

認知症の人のBPSD（行動・心理症状）は問題行動ではなく、とても大切なメッセージとして捉え、可変わる職員が視点を揃えてPDCAサイクルでケアを実践することが求められています。

全国老施協では、その認知症ケアの実践に効果的な手法である「BPSDケアプログラム」を推奨し、その普及・啓発に取り組んでいます。そこで、実際にこの「BPSDケアプログラム」を取り組まれている事業所の皆さんの声をお届けさせていただきます。



老施協総研運営委員会
委員長 尾関 英浩

●認知症BPSDケアプログラムとは

Vol.815（2022年1月28日）掲載のコラムでは、認知症BPSDケアプログラムの簡単な概要をお伝えしましたが、今回は、ケアプログラムの具体的な実施内容等についてご確認いただければと思います。

●認知症BPSDケアプログラムの実施の流れ（図1参照）

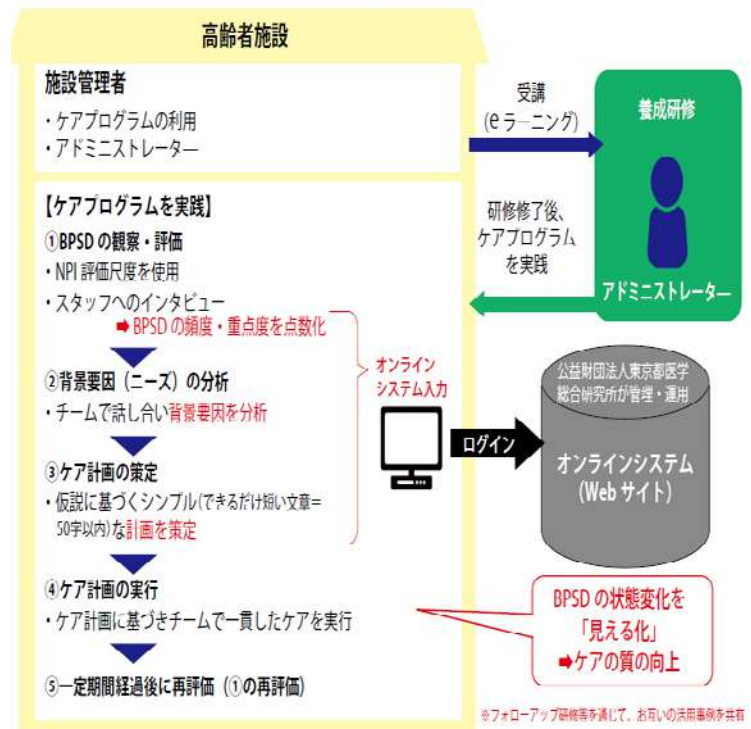
ケアプログラムを実施する上で、「アドミニストレーター※養成研修」の受講が必要となり、研修修了をもってアドミニストレーターとなり、オンラインシステムの導入が可能となります。

このオンラインシステムを用い、アドミニストレーターを中心にケアスタッフの皆様で、①NPI評価尺度を用いたBPSDの「観察・評価」、②「背景要因（ニーズ）の分析」、③ニーズを踏まえた「ケア計画」の策定、④計画に基づくケアの「実行」の4つのステップを繰り返しながら、症状の改善およびさらなるケアの質の向上を図っていきます。

●NPIについて

NPIとは、認知症BPSDの頻度や重症度などを客観的に評価する国際的な尺度のことを言い、「不安」「気力・無関心」「うつ」など12の行動・心理症状を包括的に評価するものです。（図2参照）

図1 東京都福祉保健局 とうきょう認知症ナビを参考に作成



※アドミニストレーター：BPSD 認ケアプログラムを介護現場で中心的に運用する役割を担うスタッフ

図2 NPIを評価する12種類の行動・心理症状

| 症状 | 概要 |
|---------------|--|
| A.妄想 | 周りから見て事実でないと思われることを信じている。例えば、財布や通帳を「盗まれた」という物盗られ妄想がある。 |
| B.幻覚 | 実際には存在しない音が聞こえていたり、存在しないものが見えたりしている。 |
| C.興奮 | 介護に抵抗したり、他の人に対して非協力的だったりする。 |
| D.うつ・不快 | 悲しそうにしたり、落ち込んでいたりする。 |
| E.不安 | 親しい人がいない状況で不安になる、落ち着かない、緊張する。 |
| F.多幸 | 場の状況にそぐわないほど機嫌が良い。 |
| G.無為・無関心 | 自分のことや周りのことに関心を持たない。 |
| H.脱抑制 | 衝動的な行動をとる。知らない人に馴れ馴れしくしたり、他人の気持ちを傷つけるような言動をとったりする。 |
| I.易刺激性・不安定性 | 気難しく、怒りっぽい。予定より遅れたり、待たされたりすることに我慢ができない。 |
| J.異常な運動行動 | 同じ行動を何度も繰り返す。歩き回る、服のボタンをずっといじり続けるなど。 |
| K.睡眠と夜間行動障害 | 夜中に起きて動く、早朝に起きる、昼寝を長くとり過ぎる。 |
| L.食欲あるいは食異常行動 | 体重が増えたり減ったりしている。通常は食べないものを食べてしまう。 |

「BPSDケアプログラムに取り組んでみて」

BPSDケアプログラムインストラクター 加藤 治也

社会福祉法人清心福祉会 指定居宅介護支援事業所さによろ 所長

居宅のケアマネジャーとしてこのBPSDケアプログラムに関わらせていただきました。

今まで私は認知症の方の行動・心理症状は病気からくるものなので改善するのは難しいと考えていました。

しかし、このプログラムと出会ったことでその行動の背景には原因があり、その満たされない思いをケアに関わる方々で推測し、ケアスタッフ全員が同じように接することにより、結果が変わってくることを学びました。

このケアプログラムの良い点はNPI評価による12の行動・心理症状を数値化し、可視化することでまずは職員全員でその利用者の満たされない思いについて共通の認識を持つことができます。

そして、その中で一番高く点数が付いてしまった行動・心理症状の背景要因は何かを関係する職員で話し合います。この作業がケア計画を考えるうえで非常に重要なステップになるのですが、背景要因を介護職、医療職それぞれ別の視点から考えることで新しい発想が生まれてくることがあります。

私もデイサービスの介護職員、看護職員が一人の利用者に関して共通のツールを使って経験、職種に関係なく話し合う場面に立ち合わせてもらい、職場の一体感を感じることができました。

そして、皆で考えたケア計画を皆で実行し、うまくいかなければまた皆で話し合いをして計画を練り直す。これを繰り返すことで利用者のニーズも満たされ、同時に職員のスキルアップにつながり、ひいては魅力ある事業所になるのではないのでしょうか。

★「認知症BPSDケアプログラム実践報告動画配信」について

BPSDケアプログラムについて理解を深めるとともに、今後の認知症ケアのさらなる向上を目的として、3月中旬を目途に、BPSDケアプログラムに取り組まれている施設・事業所の方より、取り組みの成果や効果等、実践事例についてご報告いただく動画を本会ホームページで配信いたします。詳細につきましては、別途お知らせいたします。

告知・依頼

| 告知 | 依頼 | |
|------------|---------------|--|
| 12/24 | 全国老施協 | 老施協チャンネル 介護の魅力が15秒以内で伝えてみませんか ショート動画を募集中！ |
| 12/10 | 全国老施協 | 令和4年度調査研究助成事業 募集開始 |
| 12/3 | 全国老施協 | 令和3年度 社会福祉法人会計基準実践的基礎講習 開催要項 |
| 11/19 | 全国老施協 | 令和3年度 全国老人福祉施設研究会議 鹿児島会議 |
| 10/1 | 全国老施協 | 第78回全国老人福祉施設大会 山口大会 オンライン開催 |
| 原則 毎週水曜 | 相談支援 | 法律相談窓口 (JS リーガルサポート) 原則として、毎週水曜日 (祝祭日を除く) の14:00-17:00 (03-5215-7725) |
| 1/28 | 昭和女子大学女性文化研究所 | オンライン・シンポジウム 人生と組織を変えるリーダーシップ |
| 1/28 | 厚生労働省 | 令和3年度介護のしごと魅力発信事業(子育てを終えた層向け) 「介護のおしごとのリアル」無料オンラインイベント |
| 1/21 | 厚生労働省 | 令和3年度介護のしごと魅力発見事業 介護イノベーターたちの働き方改革 |
| 1/21 | 厚生労働省 | 介護の生理学研究会 聴講者募集中 |



ご意見・ご要望は
コチラまで



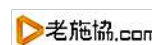
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705

Mail js.jimukyoku@roushikyo.or.jp

URL <https://www.roushikyo.or.jp>

Twitter, Facebook, Instagram, LINEでも情報発信中！





介護の魅力を15秒以内で 伝えてみませんか

ショート動画を募集中!



スマホから
簡単に応募
できます

1

お手持ちのスマホで
15秒以内の動画を縦構図で撮影

2

QRコード先の応募フォームより
必要事項を入力の上、ショート
動画を投稿



※介護現場の日常や、職員・利用者の皆さまの特技
など介護の魅力を15秒以内で伝えていくものであ
ればどんな内容でもOK!

※応募された動画は、審査を行った上で全国老施協
が運営を行う、高齢者福祉・介護の感動や魅力を
伝えるための映像配信を行っている公式YouTube
チャンネル（老施協チャンネル）に掲載される予
定です。

～応募キャンペーン実施中～

抽選で100名様に、QUOカード300円分が当たります

募集
期間

2022.3/31

木 まで

たくさんの
ご応募お待ち
しています!



注意事項

●応募作品の著作権は公益社団法人全国老人福祉施設協議会に帰属し、本会が運営を行うYoutubeチャンネルにて、PRなどの介護サービスおよび介護従事者のイメージアップ、社会的評価向上のための広報活動事業に使用させていただきます。あらかじめご了承ください。●応募作品は返却いたしません。必要の方はコピーをおとりください。●応募作品・抜写体のあらゆる権利（特に肖像権）に関して、主催者は一切の責任を負いかねます。応募に関しては、必ず被写体・写真の著作権および著作権者の了承を得てください。●応募に関する個人情報、個人情報保護法に則った管理の上、応募作品の評価、当選者への連絡、応募者名簿の管理、動画サイトへの掲載、広報活動へのご協力を依頼する目的以外には使用いたしません。●応募作品に使用する映像・音楽は、著作権処理が必要ないものを使用するか、必要な処理手続きが済んだものを使用してください。●応募作品は、動画投稿サイトへの掲載（第三者提供）を予定しておりますので、応募に際しては、第三者提供について被写体の了承を得てください。●応募作品に関して第三者の権利の侵害が認められた場合、応募者本人がその責任を負うこととし、公益社団法人全国老人福祉施設協議会は一切対応いたしません。

公益社団法人全国老人福祉施設協議会

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-7-1

塩崎ビル7階

TEL:03-5211-7700 FAX:03-5211-7705

Mail js.jimukyoku@roushikyoku.or.jp

令和4年度調査研究助成事業 募集開始

本事業の目的

全国老施協では、高齢者福祉及び介護事業の健全な発展と国民の福祉の増進のため、この目的に寄与すると考えられる大学等の教職員や研究者、研究機関の研究者等の研究を支援するべく本事業を実施します。
※本会会員施設・事業所につきましては、下記(5)現場実践に係る調査研究が応募の対象となります。
(なお、過去2年以内に本会からの助成金の交付を受けた事業所は対象となりません。)

募集内容

- 研究テーマは、下記(1)～(5)に掲げるテーマとなります。
- (1)科学的根拠に基づくサービス提供の推進に関する調査研究
 - ① 医療・介護連携による認知症ケアのエビデンスに関する調査研究
 - ② 重度化対応・看取り支援のエビデンスに関する調査研究
 - ③ ケアの生産性向上に資する調査研究
- (2)特養入所待機者の実態と受入体制・施設整備に関する調査研究
- (3)介護人材確保に向けて、介護を憧れの職業にするための方策に関する調査研究
- (4)その他の老人福祉及び介護に関する調査研究
- (5)現場実践に係る調査研究

詳細情報(募集要項)画面へのご案内

おすすめ情報

PICK UP

老施協
デジタル

老施協デジタル



災害関連情報



令和4年度調査研究募集



老施協チャンネル

老施協チャンネル



排泄物
手引き



法律相談窓口

全国老施協ホームページ・トップページ おすすめ情報から「老施協総研 令和4年度 調査研究助成事業」バナーをクリック
※会員ページへのログインは不要です
ホームページ:<https://www.roushikyo.or.jp/>
申請締め切り:令和4年1月31日(月)

【担当】公益社団法人全国老人福祉施設協議会
(松岡・吉野・鈴木(彩))
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-7-1 塩崎ビル7階
TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705
E-mail : js.souken@roushikyo.or.jp

令和3年度



社会福祉法人会計基準実践的基礎講習 開催要項

～正しい理解と運用を～会計実務担当者のスキルアップ！

—開催趣旨—

平成29年度より完全施行となった改正社会福祉法の成立に伴い、従来、厚生労働省局長通知として、その取り扱いが示されていた社会福祉法人会計基準については、社会福祉法人に求められる公益性、非営利性に鑑み、規範性を持たせた会計基準省令として示され、平成30年3月20日の最終改正において新勘定科目及び表示方法について若干の追加がなされています。

また、平成30年6月の財務諸表等電子開示システムにおける社会福祉充実残額算定シートにも若干の改正事項がありました。

これらの基準に則った会計処理を行うため、法人の会計実務担当者には社会福祉法人制度への理解が必要とされます。本講習では、社会福祉法人制度の概要や会計実務上留意すべき特徴など、会計実務担当者がおさえておくべき知識・スキルを身につけていただくことを目的としています。

研修動画 Web 配信のお知らせ

本研修はインターネット環境と動画を閲覧できる端末があれば、**期間内は何度でもご視聴いただける**研修となっております。是非この機会に Web でのご受講をご検討ください。

1 **主催** 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

2 **開催形式** 動画配信

- ・ お申込者の方には申込後3営業日以内を目処に、受講案内と請求に関するご連絡をお送りいたします。
- ・ 配信予定日以降、受講費のご入金を確認できた方から研修動画視聴のための URL をご連絡いたします。

3 **申込期間** 令和3年12月6日(月)～令和4年3月4日(金) 予定

4 **配信期間** 令和3年12月10日(金)～令和4年3月11日(金) 予定

5 **受講費** 会 員 : 8,000円 / 非会員 : 16,000円

6 **受講対象** 経理経験1年～3年程度の方
※税理士、公認会計士及びコンピューターシステム会社等の関係者の参加はご遠慮ください。

7 **申込方法** WebまたはFAXでのお申し込みが可能です。下記いずれかの方法でお申し込みください。

Web 申込 全国老施協ホームページの該当入力画面からお申し込みください。
(※全国老施協会員の方は、必ず会員ログインのうえご購入ください。)
申込内容の変更や参加取消を行いたい場合は、【10】問い合わせ先までご連絡ください。

FAX 申込 別紙「参加申込書」に必要事項をご記入のうえ、FAXにてお申し込みください。変更・参加取消の際は「参加申込書」に上書き訂正の上、FAXにてご連絡ください。

※配信開始日以降の受講費のご返金は原則として対応いたしかねます。

※配信開始日の前日までに申込み取消のご連絡を頂いた場合、受講費のお振込は必要ありません。

| 時間 | 内容 |
|-------|--|
| 30分 | <p>開会挨拶・基調報告</p> <p style="text-align: right;">公益社団法人全国老人福祉施設協議会</p> |
| 計約8時間 | <p>I. 社会福祉法人会計の基礎 (約 120 分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉法人会計の特徴 2. 計算書類の解説 <ul style="list-style-type: none"> ・貸借対照表、資金収支計算書、事業活動計算書の各内容解説 ・計算書類間の関係性の理解 3. 資金収支計算書と事業活動計算書の違い <p>II. 日常会計処理のポイント①収入処理 (約 60 分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護サービスの概要 2. 介護保険事業の収入処理 3. その他の老人福祉事業（養護老人ホーム・軽費老人ホーム）の収入処理 4. 補助金・寄附金関連の処理 <p>III. 日常会計処理のポイント② 支出処理 (約 80 分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人件費（給与・法定福利費・退職給付費用等） 2. 事務費・事業費（各支出科目の注意点） 3. 共通経費の按分の考え方と事例 <p>IV. 経理規程の重要性 (約 55 分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経理規程の内容確認と重要ポイントの解説 （帳簿組織・会計伝票・予算の必要性・出納・寄附金の取扱い・現預金管理・固定資産管理など） <p>V. 固定資産に関する会計処理 (約 90 分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 固定資産の会計処理（取得時・廃棄時・移管時） 2. 減価償却費の計算 3. 国庫補助金等特別積立金の基礎知識 4. 資本的支出と修繕費（施設の大規模改修・修繕に関する会計処理） 5. リース会計の基礎 6. 固定資産の管理 <p>VI. 月次会計処理の流れ (約 35 分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 月次会計処理時のチェックポイント 2. 書類の整理・保存のポイント <p style="text-align: right;">株式会社川原経営総合センター 経営コンサルティング部門 統括補佐 森田 敏史 氏</p> |

9 個人情報の保護について

お申込により知り得た個人情報（氏名、住所、連絡先等）については、個人情報保護法に基づき、研修運営業務（参加者の管理、参加者への連絡、請求書の送付等）以外には使用しません。

10 問い合わせ先

公益社団法人全国老人福祉施設協議会（担当：田中・中村・大和田）
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-1 塩崎ビル 7F
TEL：03-5211-7700 FAX：03-5211-7705
E-mail: js.kenshu@roushikyo.or.jp
URL：http://www.roushikyo.or.jp/ ※左記 URL より Web 申し込みが可能です。

令和3年度 社会福祉法人会計基準実践的基礎講習**受講申込書**

- ※ ご案内を確認の上、すべての項目にもれなくご記入又は〇印をお付けください。
- ※ 会員番号がご不明の際は、全国老施協事務局までお問い合わせください。
- ※ お申込により知り得た個人情報（氏名、住所、連絡先等）については、個人情報保護法に基づき、研修運営業務（参加者の管理、参加者への連絡、請求書の送付等）以外には使用しません。

| | | | | | | | | | | | |
|--------------------|---|----------------------|---|--|--|------|--|--|--|--|--|
| 都道府県 | 会員有無 | 〇印をおつけください⇒ 会員 ・ 非会員 | | | | | | | | | |
| | 会員番号 | | | | | | | | | | |
| 施設名 | | | | | | | | | | | |
| 施設所在地 (受講案内送付先) | 〒 ー ※郵便番号・住所は正確にご記入ください | | | | | | | | | | |
| TEL | TEL: | | | | | FAX: | | | | | |
| フリガナ | フリガナ | | 視聴用 URL 連絡先 e-mail アドレス | | | | | | | | |
| 参加者氏名 | 役職又は職種 | | ※ メールアドレスの記入に誤りがあると、視聴用 URL のご案内が お手元に届かない可能性があります。メールアドレスはブロック体で わかりやすくご記入ください。 ※ o(オー)と0(ゼロ)や - (ハイフン)と _ (アンダーライン)、 l (エル)と1 (イチ)等の区別が付くようご記入ください。 | | | | | | | | |
| 受講費用 | 会員 8,000円 ・ 非会員 16,000円 | | | | | | | | | | |
| 備考欄 | ※FAXにてお申込みの方は内容に変更・取消が発生した場合は、その旨こちらにご記入の上再度FAXにてお送りください。 | | | | | | | | | | |

【問合せ先】

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会 事務局（担当：田中・中村・大和田）

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-1 塩崎ビル 7階

TEL：03-5211-7700 FAX：03-5211-7705 E-mail: js.kenshu@roushikyo.or.jp

URL：http://www.roushikyo.or.jp/ ※左記 URL より Web 申し込みが可能です。

お申込締切日：令和4年3月4日（金）

JS 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

令和3年度

全国老人福祉施設
研究会議

鹿児島 会議

写真協力：公益社団法人 鹿児島県観光連盟

写真協力：公益社団法人 鹿児島県観光連盟

介護新時代への船出

～現場革新と科学的介護の実現～

開催期日

令和4年 1月13日(木)～3月31日(木) (オンデマンド配信期間を含む)

開催地

鹿児島県鹿児島市 (川商ホール (鹿児島市民文化ホール) 他)

主催

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
一般社団法人 鹿児島県老人福祉施設協議会

後援

厚生労働省、鹿児島県、鹿児島市
社会福祉法人 全国社会福祉協議会
社会福祉法人 鹿児島県社会福祉協議会

参加対象

- ① 全国老協会員施設・事業所の役員及び職員等
- ② 老人福祉・介護事業に関わる行政、社会福祉協議会の役員及び職員
- ③ その他本会が認めた者

参加費

会 員：6,000円(税込)
非会員：12,000円(税込)

写真協力：公益社団法人 鹿児島県観光連盟

介護新時代への 船出



～現場革新と科学的介護の実現～

趣旨

現在、日本における少子・高齢化の進展や人口減少は、過疎化による地方の衰退をもたらすほか、現行の年金制度や医療・介護制度の方向をも左右する大きな社会問題となっています。

さらに、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、全世界にパンデミックを起こしています。日本でも感染者数の増加と減少を繰り返し、未だに収束の兆しが見えていないのが現状です。

そのような中、2021年の介護報酬改定は、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で、「感染症や災害への対応力強化」「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」を5つの柱としそれぞれの方向性を示し、前回の改定率を上回る0.7%のプラス改定となりました。

また、サービスを出来るだけ科学的に評価するための情報システムの活用として「LIFE(科学的介護情報システム)」の運用も開始されました。これは、より質の高いサービス提供を推進するために、介護そのものの概念を「ICTを活用した人と人との関わり」に客体化させていく、言わばいかに私たちが「科学的介護」への取組みを進めるかが問われています。

さらに、私たちは介護・福祉分野の人材不足等の現状を踏まえながら、今後の介護サービス需要の伸びに対応しつつ、科学的介護を基に効果的、効率的で持続可能性の高い、よりドラスティックな介護提供体制の構築を目指し、邁進しなければなりません。

こうした多種多様な課題への解決策を見出すべく、実践事例や研究成果を全国の仲間と共有し、共に学ぶことが、これから迎える新時代をより良いものに変えていく重要なきっかけとなります。

先人の成功者の言葉に学ぶとすれば、「新しい発想を得ようと思うなら、まず誰かに話を聞け」と本田宗一郎氏。また、イチロー氏は、「メジャーリーガーの凄いところは、一度『あ、すごい選手だ』と認めたら、2500本もヒットを打っている選手でも聞きに来ます。それが偉大な点ですね」と言っています。これらの教えを見習い、私たちは互いの努力や成果を持ち寄って、次の時代へと繋がる新しい知識を共有していくことが大切です。

令和3年度全国老人福祉施設研究会議(鹿児島会議)は、私たち一人ひとりが高齢者福祉の担い手として志を一つとし「共に学び、共に新時代を切り拓くべく」開催するものです。

1/13

木 18日

※感染症の流行状況によっては無観客での開催等、開催方法が変更となる場合がございます。

全体会プログラム

(ライブビューイング同時開催)
※後日オンデマンド配信

11:30 12:30 13:00 13:30 13:50 14:10 14:20 15:30 17:00 17:10

| | | | | | | | | |
|----|-------------------|------|------|------------|----|-------------|-------------|-------------|
| 受付 | オープニング アトラクション | 開会式典 | 基調報告 | 中央情勢 報告 | 休憩 | 記念講演 (1) | 記念講演 (2) | 次期開催県 挨拶 |
|----|-------------------|------|------|------------|----|-------------|-------------|-------------|

全体会場

川商ホール(鹿児島市民文化ホール)

〒890-0062 鹿児島県鹿児島市与次郎二丁目3番1号

- 11:00 開場
- 11:30 受付開始
- 12:30~12:50 オープニングアトラクション 「TEAM KAGOSHIMA」
- 12:50~12:57 「介護士さん音頭」 歌手 さつま たけと氏
- 13:00~13:30 開会式典
- 13:30~13:50 基調報告 公益社団法人全国老人福祉施設協議会 会長 平石 朗
- 13:50~14:10 中央情勢報告 参議院議員
公益社団法人全国老人福祉施設協議会 常任理事 そのだ 修光
- 14:10~14:20 休憩
- 14:20~15:30 記念講演 「断捨離「引き算の解決法」~住まいと心のガラクタさようなら~」

一般財団法人「断捨離®」代表 **やました ひでこ氏**

断捨離提唱者
ミリオンセラー作家
一般財団法人「断捨離®」代表

学生時代に出逢ったヨガの行法哲学「断行・捨行・離行」に着想を得た「断捨離」を日常の「片づけ」に落とし込み応用提唱。誰もが実践可能な「自己探訪メソッド」を構築。
断捨離は人生を有機的に機能させる「行動哲学」と位置づけ、空間を新陳代謝させながら新たな思考と行動を促すその提案は、年齢、性別、職業を問わず圧倒的な支持を得ている。
『断捨離』をはじめとするシリーズ書籍は、国内外累計600万部ミリオンセラー。アジア各国、ヨーロッパ各国において20言語以上に翻訳されている。



※「断捨離」はやましたひでこ個人の登録商標であり、無断商業利用はできません。

- 15:30~17:00 記念講演 「介護に携わる君たちへ、君たちに望むこと」 事前収録

医療法人真正会・社会福祉法人真正会 理事長 **齊藤 正身氏**

略歴
昭和31年生まれ
1983年 帝京大学医学部卒業
1985年 埼玉医科大学附属病院入局(放射線科および第3内科研修)
1988年 医療法人真正会 霞ヶ関中央病院入職
1990年 医療法人真正会 霞ヶ関南病院 病院長就任(2010年まで)
2000年 社会福祉法人真寿会(2019年 社会福祉法人真正会に名称変更)理事長就任(現職)
2002年 医療法人真正会 理事長就任(現職)



主な社会活動
日本リハビリテーション病院・施設協会 会長
全国デイ・ケア協会 名誉会長
厚生労働省社会保障審議会介護保険部会 臨時委員(歴任)など

主な著書
『医療・介護に携わる君たちへ』(幻冬舎)など

- 17:00 次期開催県挨拶

KAGOSHIMA2021

| 分科会 | テーマ |
|---------|--|
| 第1 | <p>伴走型介護の追究 —(コロナ禍)その人らしい人生を支える科学的ケアの実践—</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 認知症ケア ▶ 自立支援介護(ADL・QOL向上) ▶ 常食化への取り組み ▶ 医療・介護の連携 ▶ 記録の活用とアウトカム評価 ▶ 看取り介護 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 医行為(咳痰吸引、経管栄養等) ▶ 機能訓練(リハビリテーション) ▶ 口腔ケア ▶ 個別ケアの実践 ▶ 非常時における介護の挑戦(感染症・災害等) |
| 第2 | <p>2040年に向けた特別養護老人ホームの進化</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 社会福祉法人戦略(経営・運営) ▶ 地域における公益的な取り組みの実践 ▶ 財務分析による経営の合理化・適正化 ▶ 既存の社会資源との連携や広報戦略 ▶ 効果的な人員配置の工夫や ICT による業務効率化と経営改善 ▶ 地域共生社会の実現に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域資源の利活用(校舎跡地活用事業など) ▶ 医療・介護の連携による協同組合の活用による経営の効率化 ▶ 地域医療介護総合確保基金を活用した事業展開 ▶ 小規模法人のネットワーク化事業による経営効率化 ▶ 社会福祉法人の利用者負担軽減の取り組み ▶ 災害対策、コロナ対策 |
| 第3 | <p>2040年を見据えた人材採用・育成・定着戦略とコロナ禍での対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ コロナ禍での介護人材採用戦略 ▶ コロナ禍での介護人材育成と定着 ▶ コロナ収束後を見据えた人材確保 ▶ 潜在介護福祉士の復職支援 ▶ 働き方改革とアクティブシニア ▶ コロナ禍における外国人介護人材の4種の受け入れ制度の課題と対応 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 外国人介護人材定着への課題と対応 ▶ 従事者の働きやすい環境づくり ▶ モチベーションにつながるキャリアパスの形成 ▶ 人事考課・ロボット導入による業務効率化 ▶ 外国人材の活用 |
| 第4 | <p>地域包括ケア・地域共生社会を支える在宅サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ICT・LIFE 導入への取り組み ▶ コロナ禍におけるサービスの展開 ▶ 過疎地域におけるデイの生き残り戦略 ▶ 健康寿命延伸に向けた重度化予防・改善に向けた取り組み ▶ 地域支援事業による地域貢献や認知症予防 ▶ 在宅での効果的なサービスの展開 ▶ 多職種協働による機能訓練の充実 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域での栄養ケアの実態とフレイル予防 ▶ 認知症ケアや医療依存度の高い方へのケア ▶ 自立支援・ADL 改善やICFに基づくケア ▶ 共生型サービス・保険外サービスの展開 ▶ 「通いの場」、「生きがい」づくりと社会参加への取り組み ▶ 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所の展開 |
| 第5 | <p>新しい入居者像を見つめた軽費・ケアハウスの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変わる利用者像と新しいサービスの実践 ▶ ICT 化への導入と新たな取組 ▶ 特定施設入居者生活介護の経営と LIFE の活用 ▶ 入居者の健康寿命の延伸・フレイル予防 ▶ 「通いの場」、「生きがい」づくりと社会参加への取り組み ▶ 食べる楽しみと栄養改善に向けた取り組み ▶ 認知症ケア <ul style="list-style-type: none"> ▶ 被虐待高齢者など緊急時の受け入れ ▶ 重度者への対応や医療との連携 ▶ 入居者の確保に関する取り組みや広報戦略 ▶ 入居者による支え合い(エンパワメント)や地域へのアウトリーチ ▶ 地域支援事業による地域貢献や認知症予防 ▶ 生活困窮者自立支援法等に関する取り組み |
| 第6 | <p>“福祉”を届けるべき人々への包括的な支援と持続可能な養護老人ホームの経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 新型コロナウイルス感染症への対応 ▶ 特定施設入居者生活介護における LIFE の活用 ▶ ICT 活用の取り組み ▶ 契約入所の取り組み ▶ 高齢者の住まい確保に関する取り組み ▶ BCP(自然災害・感染症)の策定と具体的な取り組み ▶ 入居者の健康寿命の延伸・フレイル予防 ▶ 通いの場・生きがいづくりや地域移行・中間的就労の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ▶ 食べる楽しみと栄養改善に向けた取り組み ▶ 認知症ケア、高齢障害・精神障害・慢性疾患(難病を含む)の方への対応 ▶ 介護サービスや一般型特定施設の経営 ▶ 老朽化・大規模修繕等の取り組み ▶ 入居者による支え合い(エンパワメント)、地域へのアウトリーチ ▶ 生活保護や生活困窮者自立支援法等に関する取り組み ▶ 地域定着支援センターや矯正施設等との連携 |
| 先駆的特別報告 | <p>※老施協総研調査研究助成事業対象者による先駆的特別報告</p> |

2

分科会プログラム(完全オンデマンド配信)

○ 実践研究発表(1発表15分)

○ 研究者による先駆的特別報告(1報告30分)

※ 老施協総研調査研究助成事業により実施した研究事業を報告します。

| | |
|----------|---|
| 報告 1 | ICTシステムを用いた多職種による遠隔モニタリングがもたらす食支援業務の質向上および効率化に関する実証研究 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 口腔保健支援学分野 教授 尾崎 和美 氏 |
| 報告 2 | 医師とつながる機能を有する多職種連携医療介護情報共有システムの導入による業務改善と負担軽減の検証 社会福祉法人 山彦会 理事長 櫻井 博規 氏 |
| 報告 3 | 伴走型介護の概念に基づいたQOL向上のための生活プログラム自動生成・実施結果データベース化システムの実用化と実証実験 東海大学 情報理工学部 コンピュータ応用工学科 教授 浅川 毅 氏 |
| 報告 4 | 見守りセンサーとコミュニケーションロボットの連携検証 ー見守り・コミュニケーションのバックアップロボットー 社会福祉法人 青森社会福祉振興団 理事長 中山 辰巳 氏 |
| 報告 5 | 主任層のリーダーシップ行動が介護職の就労継続意識に及ぼす影響 ー従来型・ユニット型施設別のリーダー養成システムの構築に向けてー 西南学院大学 人間科学部 准教授 田中 康雄 氏 |
| 報告 6 | 介護職員が行う標準化された口腔ケアの入院予防効果および医療費削減効果の検証 ー口腔ケアの科学的介護への確立に向けてー 株式会社クロスデンタル CEO クロスケアデンタルクリニック 院長 瀧内 博也 氏 |
| 報告 7 | 高齢者施設における「赤外線見守りシステム+介護コミュニケーションロボット+生体センサー」導入が夜間介護業務改善に及ぼす効果の検討 社会福祉法人東京聖新会 フローラ田無 施設長 尾林 和子 氏 |
| 報告 8 | 眠りSCANの活用による業務改善とユニットケアの確立 ー適切なアセスメントからその人らしさを支えるチームアプローチの確立をー 社会福祉法人 緑風会 介護老人福祉施設ふるさと那賀 施設長 井馬 美智代 氏 |
| 報告 9 | 介護ロボット(AIによる言語解析)開発による介護記録記載の負担軽減への取り組み ー更なる音声認識率の向上を目指してー 社会福祉法人 野の花会 アルテンハイム加世田 法人本部 楠元 寛之 氏 |
| 報告 10 | 外国人介護職員の安定的・継続的な就労に向けた調査研究 東京福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 講師 熊谷 大輔 氏 |
| 報告 11 | 認知症の人の意思決定支援にかかわる人々の支援の現状と課題 東都大学 幕張ヒューマンケア学部 看護学科 講師 内野 良子 氏 |
| 報告 12 | 新型コロナウイルス禍における特別養護老人ホームの経営のあり方と経営指標の開発に関する調査研究 早稲田大学 人間科学学術院 准教授 松原 由美 氏 |
| 報告 13 | 特別養護老人ホームにおける感染対策に関する調査研究および感染対策の手引きの開発 ー新型コロナウイルス感染、インフルエンザ感染、ノロウイルス感染に焦点をあててー 日本赤十字豊田看護大学 看護学部看護学科 在宅看護学 講師 松田 優子 氏 |
| 報告 14 | 中小社会福祉法人が介護職の新卒採用において成果を上げるために有効な対策とは 社会福祉法人 昴 統括事務長 松本 清一 氏 |

○ 特別報告(1報告30分)

※各分科会(分散会)のテーマごとに、有識者等による特別報告を行います。

実践研究発表の発表者募集

参加・発表申込 web サイトからお申込ください

全国老人福祉施設協議会では、令和3年度全国老人福祉施設研究会議（鹿児島会議）の実践研究発表を募集致します。日ごろ皆さんの施設で取り組まれているケアを客観視して、数値化・言語化し、理論・根拠に基づいたケアとしてご発表下さい。

※今年度の実践研究発表はすべて Web 上にて実施いたします。

実践研究発表 応募の流れ

1

Web サイトでの
新規ユーザー登録

2

研究会議への
参加申込

3

実践研究
発表申込

締切11月19日(金)まで(参
※申込締切以降の発表申込並びに抄録原稿

◆抄録原稿の提出について

- ① 発表内容が法律違反といった事がないよう、事前に発表者の責任で確認を行ってください。また、現在規制されているが、利用者のために必要といった内容については、規制緩和・制度提案の形で積極的にご発表ください。
- ② 利用者の氏名・写真等を掲載する場合、個人情報保護法の観点から、必ずご本人またはご家族の承諾を得てください。
- ③ 抄録原稿の提出は、参加・発表申込 web サイト上へのアップロードをお願いいたします。
<http://www.arrow-tourist.jp/>
(参加・発表申込ウェブサイト)
・本システムでは①新規ユーザー登録（メールアドレスやパスワード等の情報登録）②研究会議参加申込③実践研究発表申込④抄録原稿ファイルアップロード⑤発表動画データファイル&発表データファイルアップロードの手順で行っていただけます。
・ログインに必要なメールアドレスとパスワードは、大切に保管してください。
- ④ 研究会議終了後、全ての発表者の抄録原稿を全国老施協ホームページで公開します。

1 抄録原稿の書き方 ※以下、書き方の注意事項を必ず守ってください

- ① 様式：全国老施協ホームページまたは、参加・発表申込 web サイト上から「抄録原稿テンプレート(様式)」をダウンロードできます。<https://www.roushikyo.or.jp/> (全国老施協ホームページ)
- ② 抄録原稿は 1 発表（演題）1 ページです。図や表を使用する場合も 1 ページ内に収めてください。
- ③ 抄録原稿は手書きではなく、必ずパソコンを用いてください。
- ④ 用紙は、A4 サイズ、白黒印字、文字の大きさは9ポイント、2 段組（左右の 2 段）とし一行を全角 22 文字とします。行数は 1 段最大 34 行（1 段最大 748 字、2 段で約 1,496 文字）で校正してください。
- ⑤ 書体・字の大きさ、余白など、様式のページ設定を変更せずに、記載例にしたがって作成してください。
- ⑥ 取組みと最も関係あるキーワードを 3 つ、重要度順に必ず記載してください。
- ⑦ 本文は原則として<取組み課題><具体的な取組み><活動の成果と評価><今後の課題><参考資料など>で構成し、章の区切りにこれらの表題をセンタリング（中央揃え）で入れてください。
- ⑧ 箇条書きにできるところは、なるべく箇条書きでご記入ください。
- ⑨ 抄録原稿が期限までに提出されない場合、動画データのアップロードが完了しても発表の対象とはなりませんので、必ず期限までにご提出ください。

◆分科会での実践研究発表の発表者を次のとおり募集いたします

- ①応募資格：本研究会議の参加者であること **【発表者（共同研究者も含む）は必ず本研究会議へお申込ください】**
- ②発表件数：同一施設から複数のお申込みも歓迎いたします。
なお、同一発表者の発表は一題に限らせていただきます。
- ③発表認定状：発表者全員（1発表につき1枚）に、全国老人福祉施設協議会より発表認定状を贈呈します。
- ④分科会発表評価：各分科会審査員により、特に優秀な発表を選出・表彰いたします。
審査基準は、①企画力（取組みに対して研究方法が妥当であるか）、②発表力（発表自体に魅力的な工夫が凝らされ、質疑があった際に適切に対応できたか）、③応用力（発表内容が参加者にとって有益であり、幅広い施設・事業所においても同様の効果が得られるか）の観点から審査いたします。
- ⑤費用：参加費・資料作成費・郵送費等、各自のご負担となります。
- ⑥発表申込方法：本会ホームページ (<https://www.roushikyo.or.jp/>) から参加・発表申込 web サイトに移動し、申込を行ってください。※ FAX 申込不可
- ⑦発表数：**各分科会での発表題数に限りがあり、募集数が上限に達した場合は、申込みの先着順といたします。申込み状況については、全国老施協ホームページ等にてお知らせいたします。また、申込状況・発表内容により、主催者の判断で分科会を変更いただく可能性がございます。**

4

抄録原稿ファイル
アップロード

5

発表動画データファイル&
発表データファイルアップロード

加・発表申込 web サイト)

・動画データの差し替えは受け付けません

2 発表データの作成について

- ① 抄録原稿とは別に、発表データを作成してください。
- ② データは **microsoft powerpoint 2007 以降のバージョン**とします。
また、Mac 等で作成したデータは対応できません。
- ③ **最初と最後のスライドについては、指定の形式で作成してください。**（一部推薦演題は除く）
（※指定の形式については、全国老施協ホームページ (<https://www.roushikyo.or.jp/>) または、参加・発表申込 web サイト上の「実践研究発表動画作成マニュアル」からご確認ください）
- ④ スライド枚数に制限はございませんが、発表時間を踏まえ **15枚程度**が適当となります。（スライド1枚1分）
- ⑤ 研究発表は、介護従事者としての専門性を高めるためのものです。説明は客観的なデータを用いてください。
- ⑥ 発表用データは要覧には掲載致しません。文字やグラフは大きく、内容は簡潔で読みやすいものを推奨します。
- ⑦ 発表する研究や取組みが、調査研究中または継続中で、完了していなくてもかまいません。
- ⑧ 研究会議終了後、特に優秀な発表者の発表用データについては全国老施協ホームページで公開します。

3 発表動画データの作成について

- ① 作成した発表データにもとづき、**Powerpointの記録機能を使用して**動画データを作成してください。
- ② PCのマイクあるいは外部マイクを使用して録音します。また、カメラの使用については発表者の任意となります。
- ③ 動画時間は **15分程度**で作成してください。なお、動画の編集は自由に行うことが可能ですが、編集のクオリティについては**審査の対象となりません**のでご了承ください。
- ④ 動画は「**フルHD (1080p) 完全高画質 (1920×1080)**」、また「**MPEG-4ビデオ (mp4)**」で保存してください。

※動画データ作成の詳細については、全国老施協ホームページまたは参加・発表申込 web サイト上から「実践研究発表動画作成マニュアル」をご確認ください。<https://www.roushikyo.or.jp/>（全国老施協ホームページ）

KAGOSHIMA2021

会場マップ

全体会会場「川商ホール（鹿児島市民文化ホール）」

〒890-0062 鹿児島県鹿児島市与次郎二丁目3番1号 TEL: 099-257-8111

| 出発地 | 所要時間 |
|-------------------|--|
| 鹿児島空港から 鹿児島中央駅 | 鹿児島空港 鹿児島中央駅 (連絡バス/約38分) |
| 鹿児島中央駅から 全体会会場 | 鹿児島中央駅 市民文化ホール前 川商ホール (鹿児島市営バス/約20分) (徒歩/約3分) (鹿児島市民文化ホール) |



鹿児島市 (市外局番099)

| 地区 | 番号 | 会場名・ホテル名 | 電話番号 |
|---------|----|--------------|----------|
| 与次郎ヶ浜地区 | ① | 鹿児島サンロイヤルホテル | 253-2020 |
| | ② | アートホテル鹿児島 | 257-2411 |
| 天文館地区 | ③ | ホテルニューニシノ | 224-3232 |
| | ④ | ホテル・レクストン鹿児島 | 222-0505 |

| 地区 | 番号 | 会場名・ホテル名 | 電話番号 |
|----------|----|-------------------|----------|
| 鹿児島中央駅地区 | ⑤ | JR九州ホテル鹿児島 | 213-8000 |
| | ⑥ | ホテルアーピック鹿児島 | 214-3588 |
| | ⑦ | シルクイン鹿児島 | 258-1221 |
| 城山地区 | ⑧ | 城山ホテル鹿児島 | 224-2211 |
| 全体会会場 | ★ | 川商ホール(鹿児島市民文化ホール) | 257-8111 |



第78回

全国老人福祉施設大会

山回大会

オンライン開催

非営利の奉仕

テーマ

介護新時代への船出

～現場革新と科学的介護の実現～



乳 [伊まふ草号]

柳井金魚
ちよつらん祭り

東後部新田

JS 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
 本部 東京都千代田区平河町2丁目7番1号 麹町ビル7階
 〒102-00113 TEL: 03-525-7800 FAX: 03-525-7805
 E-mail: js.jimukyoku@roushikyoku.or.jp
 ホームページアドレス: <https://www.roushikyoku.or.jp>

主催
 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
 山口県老人福祉施設協議会

後援
 厚生労働省、山口県、山口市
 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
 社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
 社会福祉法人 山口市社会福祉協議会

参加対象
 ① 全国老健協会員施設・事業所の役員及び職員等
 ② 老人福祉・介護事業に関わる行政、
 社会福祉協議会の役員及び職員
 ③ その他本会が認めた者

参加費
 参加者1名あたり 12,000円 (税込)
 [会員: 6,000円 (税込)]

配信期間

令和3年 11/25(木)～3/31(木)

令和4年

開催地

山口県山口市

(山口県産業交流拠点施設 多目的ホール 他)

視聴方法

全国老健協ホームページ上に、全国大会特設ページを設置予定です。
 視聴ID・パスワードを入力の上、ご視聴頂けます。

介護新時代への船出

～現場革新と科学的介護の実現～

趣旨

現在、日本における少子高齢化の進展や人口減少は、過疎化による地方の衰退をもたらすほか、現行の年金制度や医療・介護制度の方向をも左右する大きな社会問題となっています。

さらに、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、全世界にパンデミックを起こしています。日本でも感染者数の増加と減少を繰り返し、未だに収束の兆しが見えていないのが現状です。

そのような中、2021年の介護報酬改定は、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で、「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向け、高齢者人口がピークとなる2040年も見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」を5つの柱として、それぞれの方向性を示し、前回の改定率を上回る0.7%のプラス改定となりました。

私たちはこれまで、エビデンスを基盤とした「科学的介護」の実現に向け取り組んできたこともあり、今回の改定は介護保険の目的である尊厳ある自立支援と介護サービスの質の向上に資する項目が多く含まれました。中でも、サービスをできるだけ科学的に評価するための情報システムの活用として「LIFE(科学的介護情報システム)」の運用も開始されました。これは、より質の高いサービス提供を推進するために、介護そのものの概念を「ICTを活用した人と人との関わり」に客体化させていく、言わばいかに私たちが「科学的介護」への取り組みを進めるかが問われています。

さらに、私たちは介護・福祉分野の人材不足等の現状を踏まえながら、今後の介護サービス需要の伸びに対応しつつ、科学的介護を基に効果的、効率的で持続可能性の高い、よりドラスティックな介護提供体制の構築を目指し、邁進することが求められています。

第78回全国老人福祉施設大会(山口大会)は、今一度「介護・福祉」の多様な課題を見つめ、私たちの未来を力強く拓く意志を発信する場として開催するものです。

全体会

35分 開会式典

30分 行政報告

30分 基調報告

90分 記念講演

厚生労働省

公益社団法人全国老人福祉施設協議会 会長 平石 朗

有限会社ヒロカネプロダクション 代表取締役
漫画家

弘兼 憲史 氏

1947年、山口県生まれ。早稲田大学法学部を卒業後、松下電器産業(現パナソニック)に入社。のちに漫画家として独立し、1974年「風薫る」でデビュー。

横断的な海客が特徴で、「人間、社会」についての縦交差点」で小学館漫画賞(1984年)、「課長高耕作」で講談社漫画賞(1991年)、「黄昏流星群」で文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞(2000年)、このほか日本漫画家協会賞大賞(2003年)や紫綬褒章受章(2007年)を受賞。漫画以外の著作も多数。



30分

シンポジウム「新時代の介護」

公益社団法人全国老人福祉施設協議会 ロボット・ICT推進委員会

5分

永年勤続表彰 表彰者メッセージ

5分

大会宣言

10分

次期開催県挨拶

分科会

第1分科会

科学的介護の深化

～LIFE)と「認知症BPSDケアプログラム」の取り組み～

趣旨

後期高齢者や認知症高齢者の増加、福祉・介護の担い手不足、財政的制約の高まりなどをはじめとした、私たちを取り巻く社会環境の変化に伴い、質的・量的な介護ニーズも日々変化しています。その変化に的確に対応するには、介護業界の連携はもとより、行政、医療、学術研究機関、地域住民等のあらゆる関係者との協力が重要であり、現場実践と科学的介護の連携を通じた、より高品質な介護サービスの創造が期待されています。

本分科会では、そのような介護現場へのスタートアップとして、今まで蓄積してきた様々なエビデンスをこれからの介護に効果的に活かす、介護の質を高めたいという想いから「科学的介護推進システム(LIFE)」と「認知症BPSDケアプログラム」等の取り組みから、介護の新たな価値について、その可能性を考察していきます。同様な取り組みとなる2025年が目前に迫る中、更に先の2035年の社会に向けたビジョンを共有し、自らが生き生きとした社会の実現を目指し、今から取り組みを始めるべきことを明確にし、介護現場への輸出を促す場として本分科会を開催いたします。

企画

- 40分 情報報告 全国老協協老老協総研運営委員会 委員長 尾関 英浩
- 40分 講演 I LIFEの概要について 厚生労働省 老健局 老人保健課
- 50分 講演 II CHASE～LIFE 一輪車グリーンホーム介護現場・多職種連携の取り組み事例～ 社会福祉法人鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム 施設長 服部 昭博氏
- 50分 講演 III コロナ禍における認知症の人や家族への支援について 国立法大広島大学 石井 伸弥氏
- 40分 講演 IV 認知症BPSDケアプログラムについて(仮) 東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター センター長 西田 淳志氏
- 70分 シンポジウム 認知症BPSDケアプログラム実施設の事例紹介(仮) 東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター センター長 西田 淳志氏

第2分科会

2040年に向けての特別養護老人ホームの在り方

趣旨

少子高齢化・生産年齢人口の減少が深刻化する中、私たちはターニングポイントとなる2035年から5年連続をもって、高齢者がピークとなる2040年を見据え、あらゆる社会システムにおいて人口減少を念頭に置いて改革が迫られています。

高齢者福祉・介護において「次世代へ継ぐ(未来型介護)」を創出するためには、科学的介護を推進し、生産性の向上やICT活用、医師との連携などを認識した改革をしなければなりません。

改革には、大きなエネルギーとマネジメント能力が必要です。前後と共に2040年を見据えた介護事業を構築して参りたいと思えます。本分科会を通して「未来型介護」を持って「国民の負担」にどう対応していくか、様々な角度から将来の未来像について一緒に考えてみましょう。

企画

- 30分 情報報告 特別養護老人ホームの現状と果たすべき役割 全国老協協老老協等経営委員会特別養護老人ホーム部会 部長 石踊 紳一郎
- 60分 講演 I 収支状況等調査をフル活用した経営戦略～経営困難期の勝ち残り戦略とは～ 全国老協協老老協等経営委員会委員長/社会保険審議会介護給付費分科会委員 柳田 和平
- 50分 講演 II LIFE関連加算の解説 ①科学的介護推進体制加算・栄養マネジメント強化加算 ②個別機能訓練加算・ADL維持等加算 ③自立支援促進加算・口腔衛生管理加算
- 60分 講演 III 人口動態から考える今後の特養経営について(仮) 全国老協協老老協副会長/社会保険審議会介護給付費分科会委員 小泉 立志
- 60分 講演 IV 医療事業の経営者から見た今後の特養・社会福祉法人経営について 産業医科大学医学部公衆衛生学教室 教授 松田 晋哉氏
- 30分 講演 V 介護報酬が非課税である根拠と特養経営者の責務 一般社団法人日本慢性期医療協会 会長 武久 洋三氏

～利用者負担軽減制度の完全実施に向けて～
全国老協協老老協等経営委員会特別養護老人ホーム部会 幹事 山田 淳子

第3分科会

これからの介護を見据えた人材戦略

趣旨

介護業界においては、現在、介護人材の確保・定着・育成の有効策を講じていることが不可欠とされています。コロナ禍により、新しい生活様式が求められており、コロナ禍に対応した職場環境の整備が求められています。求職者に選ばれる、安心のできる業界への転換が急務課題となっています。具体的には、

①コロナ禍における介護施設の人材採用 ②コロナ禍での介護人材(外国人介護人材)育成と定着 ③科学的介護の推進に伴い、求められる人材像の変化への対応 ④ロボット・ICT等の活用による職員の負担軽減 ⑤福利厚待による人員配置に対応した人材の確保 ⑥海外介護福祉士の積極的な活躍 ⑦外国人介護人材や元高齢者からの受け入れによる業務分担と効率化の推進

等により、介護業界の信頼性と競争性を高めることが重要です。

国の政策を含めた上記2つの具体的な手法を念頭に、介護人材の確保・定着・育成に資するこれからの介護を見据えた人材戦略について、研鑽を促す場を提供したいと考えております。

企画

- 90分 行政報告 厚生労働省 社会・健康局 福祉基礎課長・福祉人材確保対策官(社会・健康局福祉基礎課福祉人材確保対策室長兼任) 宇野 植男氏
 - 60分 講演 I 特別養護老人ホームにおける人材確保の現状と今後について(コロナ禍の人材確保、長期的な人材確保の取組)(仮) 独立行政法人福祉医療機構 経営サポートセンター リサーチグループ グループリーダー 松本 庄平氏
 - 60分 講演 II 外国人介護人材定着の課題と対応(仮) 社会福祉法人晋栄福祉会 理事長 濱田 和則氏
 - 120分 シンポジウム これからの介護を見据えた人材戦略(仮) 独立行政法人福祉医療機構 経営サポートセンター リサーチグループ グループリーダー 松本 庄平氏
- ケアサポート株式会社 総務人事務部 人材育成課 課長 福留 孝一氏
淑徳大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授 藤野 達也氏
全国老協協老老協等経営委員会 委員長 木田 二郎

第4分科会

地元の地域包括ケアとデイサービスの未来を考える

趣旨

2025年に向けて高齢者福祉・介護がとるべき道は、地域包括ケアの構築と地域共生社会の実現という2つのビジョンによって明確に打ち出されています。また、今回の制度改正・報酬改定でも「自立支援・重症化防止の推進」と「科学的介護の推進」により評価されることとなりました。これからのデイサービスは、事業所が所在する地域の価値に合わせ、現場でそれらをもとに実践し、どう活用していくかが問われ、まさに「選ばれたデイサービス」としての競争が激しくなっています。

介護に対するニーズも時代とともに新たなフェーズに入った今、「人材」「地域」「科学的」を融合させ、地元からなくなっていくと言われ続けるためのデイサービスの未来について研鑽を図ります。

企画

- 30分 情報報告 全国老協協老老協等経営委員会特別養護老人ホーム部会 部長 波淵 幸敏
- 60分 講演 I デイサービスにおける加算算定状況と算定のポイント 全国老協協老老協等経営委員会特別養護老人ホーム部会 幹事 小川 弥仁
- 60分 講演 II 地域包括ケア時代求められるデイサービスのあり方～デイサービス事業者が描くべきビジョンと「経営戦略」 株式会社ケアモンスター 代表取締役 田中 大信氏
- 30分 講演 III 小規模自治体・過疎地・僻地などのデイサービスを拓く法人・施設の経営戦略 社会福祉法人 阿武福祉会 介護福祉士 福田 大介氏
- 60分 講演 IV デイサービスにおける生産性向上と科学的介護の推進～働きがいのある現場を目指すことがLIFEの本質的活用を促進する～ 株式会社TRAPE 代表取締役 齋田 大智氏
- 60分 講演 V 通いの場戦略の限界とそれの先～総合事業/整備事業のこれから 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 共生社会政策部長 主席研究員 岩名 礼介氏

第5分科会

新しい入居者像を見つめた軽費・ケアハウスの展開

趣旨 令和3年度の介護福祉認定では「地域型ケアシステムの推進」をはじめとした柱が打ち出され、軽費老人ホーム、ケアハウスにおいても、運営改正によりそれらへの対応が求められます。また、今後、さらなる少子高齢化が進む中で、軽費老人ホーム、ケアハウスの入居者の質は確実に変化していきます。従来の入居者像だけでなく、高齢者の生活状況、医療との連携がより一層求められてくることが想定されます。
本分科会では、そうした新しい入居者像を見つめ、地域共生社会における軽費老人ホーム、ケアハウスのありか、どのような対応や対策が求められているのか、軽費老人ホーム、ケアハウスの明るい未来と展望について、事例を語ります。

企画

- 30分 情報報告** 全国老施設軽費老人ホーム・ケアハウス部会 部会長 藤井 陽子
- 60分 講演 I** 地域共生社会における養護老人ホーム・軽費老人ホーム・ケアハウスのあり方
～令和2年度老健事業の調査研究事業を中心に～ 芝罘6分科会と共同プログラム 淑徳大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授 結城 康博 氏
- 60分 講演 II (対談)** 地域共生社会の実現に向けた軽費老人ホーム・ケアハウスの現状と課題を踏まえつつ～
～各施設種別における現状と課題を踏まえつつ～ 昭和女子大学 人間社会学部 福祉社会学科 教授/全国老健事業部会 委員 中川 勝喜 氏
全国老施設軽費老人ホーム・ケアハウス部会 部会長 藤井 陽子 氏
- 30分 講演 III (対談)** 軽費老人ホームA型とケアハウスの実態～ケアハウスへの転換事例から～
社会福祉法人緑水会 ケアハウス緑水の泉 施設長 小佐野 進 氏
全国老施設軽費老人ホーム・ケアハウス部会 部会長 藤井 陽子 氏
- 60分 講演 IV** ケアハウスで工夫している取り組みと入居者の変化
～1年間で生活できる住まい(相談窓口の実践)～ フリーライター(元シニア住まい塾相談員) 栗原 道子 氏
- 60分 講演 V (事例発表)** ケアハウスにおける看取りと医療連携の最新動向～先進的取組と今後の展望～
社会福祉法人昭徳会 ケアハウス高英安立 看護部長 高井 里美 氏
社会福祉法人台日ホーム ケアハウス大宮 副施設長 大野 文 氏

第6分科会

“福祉”を届けるべき人々への包括的支援と持続可能な養護老人ホームの経営

趣旨 養護老人ホームは、住環境や経済的な課題をはじめとした複雑な課題を抱える高齢者の生活を支援し続けている一方、地方分権による措置費の一部削減や介護保険制度により、入所対象者、措置額、養護老人ホームの三者において制度的な適応に困難を生じるケースも見受けられます。その中で、契約入所や地域共生事業など、養護老人ホームを取り巻く状況も変わりつつあります。
こうした現状において、地域住民や入所対象者、措置額側から今以上に必要とされる養護老人ホームを指向しつつ、定員割れや収支バランスの悪化の中で養護老人ホームをどう構築していくのか、現制度における現場の問題解決に向けた全国的な行動を模索すべく、研鑽を深めるものです。

企画

- 45分 情報報告** 全国老施設養護老人ホーム部会 副会長 利光 弘文
- 60分 講演 I** 地域共生社会における養護老人ホーム、軽費老人ホーム・ケアハウスのあり方
～令和2年度老健事業の調査研究事業を中心に～ 芝罘5分科会と共同プログラム 淑徳大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授 結城 康博 氏
- 60分 講演 II** 養護老人ホームの役割と事業継続の道徳
～軽費高齢者受け入れの契機を踏まえて～ 西九州大学 健康福祉学部 社会福祉学科 准教授 江口 賢子 氏
- 45分 講演 III** 「ストップ措置控え」のためのアクションへ向けよう…
～措置額調整調査3か年経過レポートより～ 全国老施設養護老人ホーム部会 幹事 平岡 敬 氏
全国老施設協議会(Q&A) 副会長 林 武 氏
- 30分 講演 IV** 契約入所の現状と今後の展望～契約入所のQ&A～
全国老施設協議会(老人ホーム部会) 副会長 林 武 氏
- 60分 講演 V (対談)** 「どうなるだろう」からの養護老人ホーム
～現状の打開と未来(あしひ)の対応～ 城西国際大学 福祉総合学部 福祉総合学科 教授 清水 正美 氏
全国老施設協議会(老人ホーム部会) 副会長 利光 弘文 氏
全国老施設協議会(老人ホーム部会) 幹事 平岡 敬 氏

お申込み方法



STEP 1

チラシに掲載のURL / 検索 / QR コードから、全国老人福祉施設協議会ホームページのTOPページへアクセス

STEP 2

TOPページの「募集・申込」をクリックして、「全国大会・研究会議開催要項等」を選択、さらに、「全国老人福祉施設大会の開催情報(令和3年度)」をクリックしてください。



QRコードからもアクセスできます
※名称、TOPページ上部のイメージ画像部分に大会ページにダイレクトにアクセスできるリンクもご用意していますので、ご利用ください。

STEP 3

「全国老人福祉施設大会の開催情報(令和3年度)」ページの「第78回全国老人福祉施設大会(山口大会)」をクリックし、大会特設ページ(9月下旬開設予定)へアクセス

STEP 4

大会特設ページの参加申込ページよりお申し込みください。(申込受付期間2021年10月1日10時～2022年3月24日)

STEP 5

お申込み手続きを完了いただきましたら、申込受付メール、参加費のご請求書の原本をお送りいたします。

STEP 6

指定の期日までにお振込みを完了いただきましたら、動画視聴用のID/PWをメールにてお送りさせていただきます。また領収証を受付システムにて発行いたします。

申込に関するお問い合わせはコチラ

TEL 03-3516-7813 株式会社サンケイ会館・山口大会運営事務局 高野・小此木・近野 roushikyo-yamaguchitaikai@sankeibldg.co.jp

法律相談窓口（J Sリーガルサポート）の開設日のお知らせ

公益社団法人全国老人福祉施設協議会では、会員便益向上の観点から、弁護士による法律相談窓口（J Sリーガルサポート）を設置しております。相談窓口の開設日時や具体的な運用については以下のとおりですので、ご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

（J Sリーガルサポートの利用）

- ・ J Sリーガルサポートを利用される場合には、原則として、毎週水曜日（祝祭日を除く）の14：00-17：00に以下の電話番号にお問い合わせください。

J Sリーガルサポートの電話番号：

0 3 - 5 2 1 5 - 7 7 2 5

（2月の開設日時）

- ・ 下記日程での開設となります。（※一部、日程が原則と異なります）

| | |
|--------|--|
| 令和4年2月 | <u>3日(木)</u> 14：00～17：00 ， 9日(水) 14：00～17：00 16日(水) 14：00～17：00 ， <u>22日(火)</u> 14：00～17：00 |
|--------|--|

※ 担当弁護士は、宮澤潤法律事務所 長野 佑紀氏

（留意事項）

- ・ J Sリーガルサポートの開設日時については変更となる場合があります。その場合は、JSweekly等により事前に周知いたします。
- ・ 相談内容については、例えば、介護事故に伴う損害賠償等の内容が考えられます。会員と直接関係が認められない相談内容はお受付いたしません。また、介護報酬の解釈・基準等に関する問い合わせについては、J SリーガルサポートではなくJSWEB110をご活用ください（下記参照）。
全国老施協 HP ⇒ マイページ ⇒ JSWEB110
- ・ J Sリーガルサポートの対象として無料法律相談が可能になるのは、1つの案件につき初回の法律相談に限られ、同一案件に関する2回目以降の法律相談についてはJ Sリーガルサポートの対象には含まれません。したがって、2回目以降の法律相談等を希望される場合には、各会員と弁護士との間での別途個別契約により御対応ください。
- ・ 同様に、同一拠点に複数の施設・事業所（以下、「施設等」という。）を有する法人に関しては、当該拠点内の1施設等が既に初回の法律相談を利用されている場合には、同一案件については、他の施設等は会員番号が異なる場合であってもJ Sリーガルサポートを利用できませんので、法律相談等を希望される場合には、各会員と弁護士との間での別途個別契約により御対応ください。

2022年2月5日（土）
午前10時～正午
オンライン・シンポジウム

人生と組織を 変える リーダーシップ

これからの働き方と生き方、組織経営

100周年記念研究&企業ワークショップをふまえて

これからの時代に必要な働き方を実現する「21世紀型のリーダーシップ」とは—。塩崎彰久衆議院議員をお招きして、花王株式会社および株式会社松屋の方々、坂東眞理子本学理事長らとともに考えます。

「働き方改革」というと、もっぱら私生活と仕事という二項対立で語られがちですが、本研究では、自分自身を「職場」「コミュニティ」、「家族生活」、「自分自身」の4領域から見つめ直し、それぞれを自分ならではのバランスで調和させる「トータルリーダーシップ」の考え方に着目し、自律的にキャリア形成を進めることの意義と実践について、花王/松屋のみなさんとワークショップを通じて考えてきました。

本シンポジウムでは、ワークショップから見えてきたことを紹介しつつ、こうした新しいキャリア形成を後押しすることがなぜ企業にとっても重要課題なのかについて、ESGの尊重、ダイバーシティ&インクルージョンの確保、SDGsの推進等、組織経営の観点から討論します。

*本シンポジウムは昭和女子大学100周年記念事業として実施した調査研究の成果報告を兼ねています。

プログラム概要

【基調講演・パネル討議】

塩崎彰久

衆議院議員、弁護士

『トータルリーダーシップ：ウォートン校流
「人生を変える授業」』翻訳者

【開会挨拶・パネル討議】

坂東眞理子

昭和女子大学理事長・総長

【報告・パネル討論】

間宮秀樹

花王株式会社 執行役員
人財開発部門統括

川相哲也

花王株式会社 研究開発部門
ヘアケア研究所 第2研究室長

川合晶子

株式会社松屋 取締役上席執行
役員 人事部構造改革推進委員会担当

百木さおり

株式会社松屋 外商事業部外商1部長

【研究報告/モデレータ】

北本佳子・今井章子

本学教授・本研究PJメンバー

【閉会挨拶】

武川恵子

本学女性文化研究所長

申し込みフォーム：<https://forms.gle/zkqZx6SrtEBvjWGM6>

主催：昭和女子大学女性文化研究所 〒154-8533 世田谷区太子堂1-7-57

問い合わせe-mail：iwc-admi@swu.ac.jp





ゆうゆうLife 無料オンラインイベント 視聴者募集!!

無料オンラインイベント「介護のおしごとのリアル」視聴者募集!

～介護の仕事に興味のある方、また現役介護業界で働く方も必見!～

産経新聞社では、12月15日(水)より無料オンラインイベント「介護のおしごとのリアル DISCOVERY 介護～3人のトップランナーに密着～」をインターネット配信します。

自らも母親の介護経験がある町亞聖さんが司会を務め、ゲストに上条百里奈さんとビデオ出演していただいた3人の現役の介護職の方をお招きし、介護の仕事のリアルと魅力に迫ります。

ページ下の『申し込む』ボタンをクリックして視聴者登録をしてください。完了後に視聴用URLをメールにてお知らせいたします。

※視聴前、視聴後のアンケートに答えていただいた方に抽選でダブルフラワーなどをプレゼントします。

※本イベントは、令和3年度厚生労働省補助事業「介護のしごと魅力発信等事業（子育てを終えた層向け）」の一環です。

公式サイト¹のケアするウェブマガジン「ゆうゆうLife」(<https://youyoulife.jp/>)では、介護と介護の仕事に関するさまざまな情報を発信しています。また、おチエさんの「介護なやみ相談」では、介護全般についての「なやみ」についてアドバイスしています。

あなたの声をお寄せください。おチエさんの「介護なやみ相談」⇒[コチラより](#)

上条百里奈さん、無料オンラインイベント 「介護のおしごとのリアル」にメインゲストで出演!

【イベント概要】

イベント名:「介護のおしごとのリアル」

DISCOVERY 介護～3人のトップランナーに密着～」

出演:上条百里奈(介護福祉士・研究員・モデル)

町亞聖(フリーアナウンサー)

3名の介護職に就いている方々

配信期間:12月15日(水)12:00～2月18日(金)23:59まで

視聴料:無料

視聴方法:インターネット配信

※視聴をご希望の方は、
お申込みが必要となります。

視聴 お申込みサイト

(<https://id.sankei.jp/>)

よりお申し込みください。

お申込みいただいた方に視聴用の

URLをメールでお知らせいたします。 ゲスト 上条百里奈 司会進行 町亞聖



出演者プロフィール

ゲスト：上条百里奈（介護福祉士・研究員・モデル）

介護福祉士として現場に従事しながら、白梅学園大学で嘱託研究員兼非常勤講師を務める。

また介護現場の労働環境、労働生産性について研究。日本介護学会（2019年）にて「介護福祉施設における労働生産性とその損失要因」について発表。東京大学政策ビジョン研究センター（現・未来ビジョン研究センター）

「健康診査・保健指導の有効性評価に関する研究」の研究協力者。介護の現場で直面した情報不足による介護虐待、介護殺人、介護職の過重労働に課題意識を持ち、発信力を求め22歳からモデルとしても活動。

東京コレクション等のランウェイ、CM広告等に出演。情報番組のコメンテーターやテレビドラマの介護監修なども手掛ける。厚生労働省“介護のしごと魅力発信事業”パーソナリティー。

Instagram https://instagram.com/yurina_kamijo?utm_medium=copy_link



司会進行：町亞聖

小学生の頃からアナウンサーに憧れ1995年に日本テレビにアナウンサーとして入社。その後、活躍の場を報道局に移し、報道キャスター、厚生労働省担当記者としてがん医療、医療事故、難病などの医療問題や介護問題などを取材。また北京パラリンピックでは水泳メダリストの成田真由美選手を密着取材。“生涯現役アナウンサー”でいるために2011年にフリーに転身。脳障害のため車椅子の生活を送っていた母と過ごした10年の日々、そして母と父をがんで亡くした経験をまとめた著書「十年介護」を小学館文庫から出版。医療と介護を生涯のテーマに取材、啓発活動を続ける。

（町 亞聖公式ブログ→<http://ameblo.jp/machi-asei/>）



<出演番組>

☆ラジオ日本 あさ6時30分～8時50分生放送

「町亞聖のスマートNEWS」金曜パーソナリティー

☆文化放送 毎週金曜よる7時00分～7時15分

「みんなにエール！～障害者スポーツ応援番組～」

☆ニッポン放送 毎週日曜あさ6時25分～6時55分

「ウィークエンドケアタイム「ひだまりハウス～うつ病・認知症を語ろう～」

申し込む

【注意事項】

- ・お申込みは「産経ID」へのログインが必要です。「申し込む」をクリックしてログインまたは新規登録をお願いします。
- ・本イベントは動画配信プラットフォーム「Vimeo」を使用した配信となります。

<動画視聴における推奨環境>

[スマートフォン、タブレット]

iOS 11.0以降（Safari最新バージョン）/Android OS 5.0以降（Google Chrome最新バージョン）

[パソコン]

Windows 10以上（最新バージョンのGoogle Chrome・Safari・MS Edge・Firefox）/MacOS 10.9以上（最新バージョンの

2時間単位の細切れシフト 多世代で多様な働き方

社会福祉法人さくらぎ会
特別養護老人ホームこもれびの郷
(東京都あきる野市)



理事長
宮林大輔さん

施設内の全業務を105に分類し、業務習熟度や役割ごとに九つのランクに整理しました。これにより1日2時間単位の細切れシフトが可能になり、質の高いケアを提供するための研修システムも構築できました。採用形態では区別を

していません。また「職員育成プロジェクト」のメンバーが自分の働くフロアの職員を査定しています。個々の努力を目に見える形で評価しているため、やる気を引き出す効果があります。結婚、出産に伴って働き方の変更を希望する職員もいます。このようなニーズにも対応が可能となり、退職者を減らし、高い定着率を実現することにつながりました。

夜間の勤務は時給を上げて体力のある若者に担ってもらい、早朝や夕方

の勤務は施設から半径1キロ以内に住むアクティブシニア層の短時間パート職員の力を借りてこまぎれシフトを組んでいく。あらゆる世代の多様な働き方を組み合わせることで介護の現場は魅力的な職場に変わっていくはず

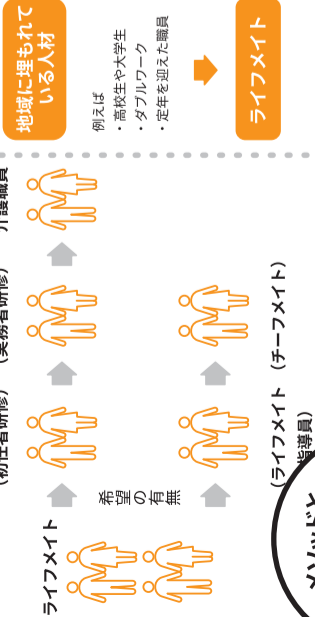
メンソッドと
インフォの詳細は
webで見ることが
できます

詳しくはこちら



和心 ライフメイトが秘める可能性

※和心の資料をもとに作成



メンソッドと
インフォの詳細は
webで見ることが
できます

詳しくはこちら



同時に雇用形態や年齢を問わず、ユニットごとに業務改善の提案を考えていく手法を採り入れました。多様な人が活動できる職場づくりが、これからの人材戦略のかぎでしょう。

ためほとんど辞めることがありません。介護職員から見た貢献度も高くなっています。得意分野で力を発揮してもらおうという考えから、各ユニットで働く職員全員で話し合い、ルーティンワークのほか、ライフメイトの性格や得意なことを考慮したうえで仕事を振り分けているからです。大学生がアルバイトでライフメイトを始め、介護の仕事に興味を持ち、正職員を希望するケースもできています。

【PR】

「自分ができる」がきつと見つか これからのKAIGO

人手不足のトンネルに明かりが見えた 介護イノベーターたちの 働き方改革

介護事業所の人材不足感は依然として高いもの、すべての事業所で不足しているわけではありません。このシリーズでは、アクティブシニアの活用や多様な働き方を可能にするマネジメント改革に取り組むキーパーソンを「介護イノベーター」として取材し、メンソッドを語ってもらいました。

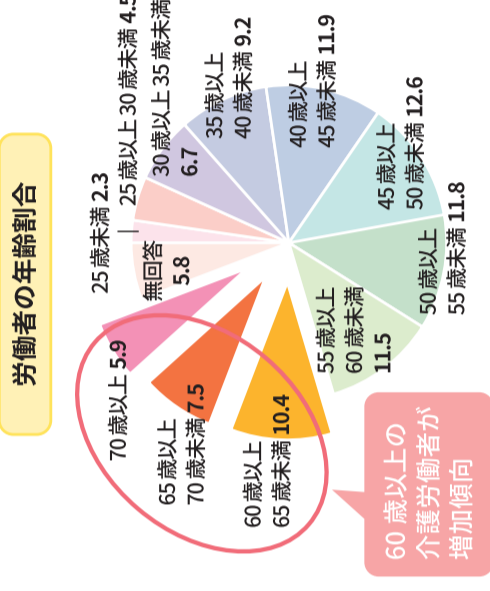
改革の裏側に見えた チームビルディング

介護事業所での人材不足感には、「介護労働実態調査」のうえでは2019年度2020年度の2連続で少しずつ改善傾向に向かっています。離職率は過去最低を更新し、60歳以上の労働者の割合が増加傾向にあります。「介護労働者の就業実態と就業意識調査」によると、前職を辞めた理由は、「結婚・妊娠・出産・育児のため」が25.0%で最も多く、次に「職場の人間関係に問題があっ

たため」が16.6%、「自分の将来の見込みが立たなかったため」が15.0%です。この中には、前職が介護・福祉・医療の人も多くおり、職場を変える理由が必ずしも「収入だけではない」ということがわかります。周辺業務をアクティブシニアに担ってもらった介護助手の制度導入が注目されがちですが、今回の取材で見えてきたのは、その裏側で多様な人たちが多様な形で働ける職場改革がありました。そのヒントをマネジメント層と職員が一

体となって考え、他の産業の就労経験から導き出している事業所もありました。制度導入がゴールではありません。雇用形態による区別なく、職場のメンバーのスキルや能力、経験などを最大限に引き出していくチームビルディングに取り組めるかが力を握っています。(岩崎賢一)

※本特集は令和3年度介護のしごと魅力発信等事業(ターゲット別魅力発信事業)として実施しています。(実施主体:朝日新聞社・厚生労働省補助事業)



※「令和2年度介護労働実態調査の結果」(事業所調査)を参考に作成
※全国の事業所から18000事業所を無作為抽出にて選定。有効回答は9,244事業所(有効回収率は52.7%)

他にシリーズで取り上げた施設・団体
(丸数字は回)

- ②全国介護事業者連盟
- ④Sketter
- ⑤梅香の里
- ⑥東京都健康長寿医療センター研究所
- ⑦カリタス有東
- ⑧健康・いきがい就業ラボ
- ⑨やすらぎ苑
- ⑩ソラスト

詳しくはこちら



なかまある これからの KAIGO 🔍 検索

聴講者募集中

介護の生理学 研究会

スケジュール(予定)

- 10:30 開会
- 10:40 講演
「介護とは何か？」
飯田大輔氏
- 11:50 各テーマの探求
※途中昼休憩有り
- 15:25 審査員による
トークセッション
- 17:00 審査員賞発表

オンライン開催 2022.2.19 sat. 10:30~17:30

Physiology of
Elderly Care

ケアの思考過程って？

介護は、利用者一人ひとりの生活に寄り添い、個人に適したケアを行うことが重要です。一方で、人間を生理学的にみると、人体の構造と機能は個人によらない部分が多く、より良いケアを行うためには、生物体としての人間の見方を獲得することも重要です。

たとえば、発熱への介護は、体熱の産生や放熱の仕組みを知らなければならぬし、排泄の介護は、直腸や肛門、尿道や膀胱の構造や仕組みを知ることが求められます。それを生活を整える実践につなげるために、歴史や文化など社会科学の視点も融合させることで、ケアの創意工夫とアイデアの幅がさらに広がり、介護の仕事の専門性と魅力を再認識する機会になると私たちは考えています。

「介護の生理学研究会」では、いくつかの介護行為について、生理学の視点からケアの実践に至るまでの思考過程について探求します。また、飯田大輔氏(社会福祉法人福祉楽団 理事長)による講演「介護とは何か？」や審査員によるトークセッションも行います。

聴講のお申込み

下記 URL または QR コードよりお申し込みください
<https://forms.gle/77KidAaMwxnVVVHm8>



「介護の生理学研究会」

日時: 2022年2月19日(土) 10:30~17:30
会場: オンライン(zoom)

・概要: 「生活の思考」介護を科学する情報サイト
<https://think-life.net/event>



【主催】株式会社シルバーウッド mstp@silverwood.co.jp tel: 047-304-4003

審査員



飯田 大輔
社会福祉法人 福祉楽団
理事長



金井 一薫
ナイチンゲール看護研
究所 所長



堀田 聡子
慶應義塾大学大学院 教
授(認知症未来共創ハ
ブリーダー)



佐々木 淳
医療法人社団悠翔会 理
事長 / 診療部長



菊井 徹也
一般社団法人高齢者住宅
協会 副会長 (SOMPO ケア
株式会社 取締役執行役員)



石田 路子
高齢者社会をよくする女
性の会 理事(介護給付
費分科会委員)



松岡 宗嗣
一般社団法人 fair 代表
理事



下河原 忠道
株式会社シルバーウッド
代表取締役

コーディネーター